



- 02 笑顔・元気 かがやく大竹
- 08 大竹市議会議員一般選挙／農業委員会委員が決まりました／「よいまち」を作っていくためのまちづくりの基本目標No.3
- 10 カーブ激励日帰りバスツアー参加者募集／サンフレッチェ広島を応援しよう／ポートルース宮島夏の三大カーニバルと花火観覧／モーターポートルーサーを募集しています
- 12 原爆の日・終戦記念日に黙とうを／原爆死没者追悼平和祈念式典／「平和へのおもい」の開催／近隣施設の紹介
- 14 児童扶養手当・特別児童扶養手当の現況届／家宅捜索・タイヤロックの実施／市民活DOI助成対象事業決定／ヘルスアップ事業運動教室参加者募集
- 16 表彰／農園で農業体験をしてみませんか／カメラスケッチ
- 18 市職員募集／大竹市消費生活センター
- 20 消費者シリーズ／年金のはなし／障害福祉のとびら／みんなで考えよう公共交通
- 22 生涯学習講座参加者募集
- 24 としょかんだより
- 25 情報ステーション
- 31 広告
- 36 はじめまして／大竹ジャズダンス同好会第12回ダンス公演／「95年の歴史ロビー展」開催中

笑顔・元気 かがやく大竹

子どもたちの未来のために ～学校改築の取り組み～

問い合わせ 総務学事課 ☎21184 企画財政課 ☎21121



大竹小学校新校舎



(上)屋上に設置された太陽光パネル



(上)芝生化されたグラウンド
(左)吹き抜けの職員室前廊下



(右)見渡しがよくように設置された低い下駄箱

このたび、第五次大竹市総合計画「わがまちプラン」がまとまりました。「住みたい、住んでよかったと感じるまち」を目指して、市は市民の皆さんと共にまちづくりを進めていきます。

まちを愛する人をたくさん育て、まちづくりの推進力になってほしいとの思いから、まちづくりの基本目標には「大竹を愛する人づくり」という項目があります。

今回は、市の将来の担い手である子どもたちの学習環境づくりについてお知らせします。

グラウンドの芝生

「新しい小学校の工事が始まって、その校舎で学ぶことのできない、当時の6年生に、せめて芝のグラウンドで運動会をさせてあげたい」

3年前、大竹っこを大切に思う人々の熱い思いと実行力で、大竹小学校のグラウンドが芝生化されました。校舎の建て替えは決定していたものの、校舎の位置はまだ確定していない時期であったため、もしかしたら1年後には、はがされてしまうかもしれない芝生。それでも関係者の熱い思いは、実行力へと変わり、苗を育て、固いグラウンドに穴を掘り、1株ずつ植えられていきました。その後も続くボランティアによる献身的な水やりや芝刈りで見事に根付いた緑のじゅうたんでは、運動会だけでなく、体育や休憩時間など、多くの子どもたちの元気な姿が見られました。

結果的には新しい校舎は現在の位置に建て替えられることになり、芝生ははがされましたが、その一部は松ヶ原こども館に移植され、訪れた親子を楽しませています。

また、晴海臨海公園や岩国市民球場などにも根付いており、市内だけでなく市外にも引き継がれています。そして皆さんの熱い思いと実行力が契機となり大竹小学校の新しいシ

新しい大竹小学校の落成式がありました

市と教育委員会は、今年3月に、新校舎の引き渡しを受けていましたが、このたび新しい芝生グラウンドと中庭の使用を開始しましたので、6月20日(月)に落成記念式典を挙行しました。

式典後は、校舎見学会を行い、太陽光発電や地中熱を利用した換気システムなど、環境に配慮した設備などを出席者に公開しました。

ンボルとして皆の心の中に根付いた芝生。

この思いを引き継ぎ、新生大竹小学校にも芝生のグラウンドと中庭が完成しました。5月31日(火)には、保護者席まで芝生に覆われたグラウンドで、運動会が開催され、子どもから高齢者までが、気持ち良く1日を過ごしました。

今回は、小学校建設工事の中で整備しましたが、今後も、大竹を愛する皆さんに見守られる中で、安らぎの風景、場所となっていくてくれることを願っています。

また、新しくなった大竹小学校には、3月まで木野小学校に通っていた児童も4月から通っています。



芝生のグラウンドでの運動会

小方小・中学校の建設が始まります

これまでの経緯

平成14年度に「大竹市小・中学校充実のための基本方針」において、市内小規模校の小方小学校、小方中学校への統合と同時に、大願寺地区に移転改築する方針が示されました。これを受け、平成19年度には、次のような理由から、小方小・中学校を、極めて強固な地盤で災害に強い大願寺地区に移転改築することにしました。



強固な地盤の大願寺地区

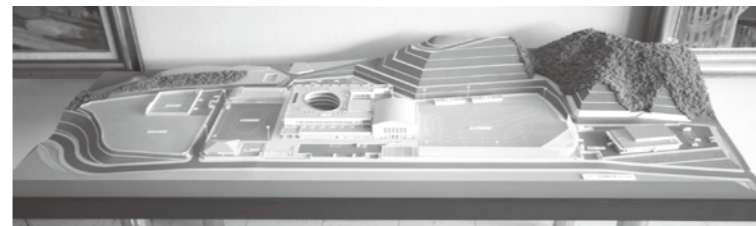
移転の理由

- 現在地は、国道2号やJR山陽本線に近接していますが、岩国大竹道路整備が計画され、小方小学校校舎のすぐ側を高架橋が通る予定になっており、さらに学習環境が悪くなってしまう。
- 小方小学校が耐震診断の結果、基準を満たしておらず、小方中学校も一度大規模改修をしているのみで、診断結果は良いとは言えない状況です。
- 通常、耐震補強と併せて大規模改修工事を実施すると、1棟あたり2億円程度必要です。小方小学校・小方中学校は合わせて4棟ありますので8億円程度必要になります。
- しかしながら、小方小学校、小方中学校とも平成19年度当時ですでに築後34年を経過しており、耐震改修工事しても、耐用年数が大きく伸びるわけではありませんので、近いうちに建て替えの検討が必要になります。
- 移転先の大願寺地区は、独立峰を削って作られました。当時、岩盤が固くてこれ以上削るのは厳しいというところまで削った結果、災害に強い高台となりました。

新しい学校のコンセプト

これからの学校は、子どもたちの学びの場であり生活の場であることはもちろんですが、地域の人のための生涯学習の場にもなります。また、災害時には避難施設としても利用されます。

この点を再確認しながら、ワークショップの手法を用い、保護者や地域の皆さんと共に、小方地区の学校としての理想像を検討しました。そこから「子どもも住民も行きたくなる『安全・安心』な学校づくり」がコンセプトに導き出され、その実現に向けて、大願寺地区に、小学校、中学校の校舎を一つの校舎に配置する施設一体型の「小中一貫校」を建設することを決定しています。



小方小・中学校模型

現在、設計業務が終わり、市役所3階ロビーに小方小・中学校の模型を展示しています。開庁時間内であれば、どなたでも自由にご覧いただけますので、ぜひお越しください。

大願寺地区には、小・中学校用地の東側に広大な土地があります。こは住宅地として整備する方針です。まちづくりの幅が広がるように、小規模店舗や社会福祉施設の建設を可能にするなどの地区計画の変更を、平成23年中を目途に予定しています。今後も大願寺地区の魅力を高める工夫をしながら、早期売却に向けて、引き続き努力していきます。

新たな通学路は、より安全なルートを設定しますが、現在もご協力いただいている地域の皆さんによる見守り活動は、大願寺地区だけでなく地域全体の安全を守る大きな力であると認識するとともに感謝しており、移転後も引き続きお願いしたいと考えています。

給食センター(中学校も完全給食へ)

市内小学校給食施設の老朽化の解消、中学校への給食導入、災害時利用などの点から、小方小・中学校の建設に合わせて給食センターの建設も予定しています。平成25年4月からは、ここで作られた給食を、市内の各小・中学校へ運搬します。市域の中ほどにあり災害に強いこの地は、災害時における運用も期待できます。

子どもも住民も行きたくなる「安全・安心」な学校づくり ～小学校・中学校・家庭・地域の連携と協働～

市民と一緒につくったコンセプトの実現に取り組みます。

1 安全・安心な学校づくり

- 災害時には避難施設として利用することを想定し、停電時に対応した自家発電設備を設置します。
- 不審者対策として防犯カメラを設置します。
- 現在も皆さんにご協力いただいている通学時の見守り活動を引き続きお願いし、学校・地域ぐるみで子どもの安全を守ります。
- 多目的トイレの設置や段差への配慮など、誰もが利用しやすいバリアフリー施設にします。

2 小学校・中学校・家庭・地域が連携する学校づくり

- 施設一体型の小中一貫校として整備し、中庭を取り囲む「口」の字型の校舎1、2階に小学校、3階に中学校の普通教室を配置します。一部特別教室や多目的スペースなどを小・中学校で共用します。
- 屋内運動場、武道場や一部特別教室を地域で利用できるよう校舎区画に配慮します。
- グラウンドに夜間照明を整備します。

3 地域や環境に溶け込んだ学校づくり

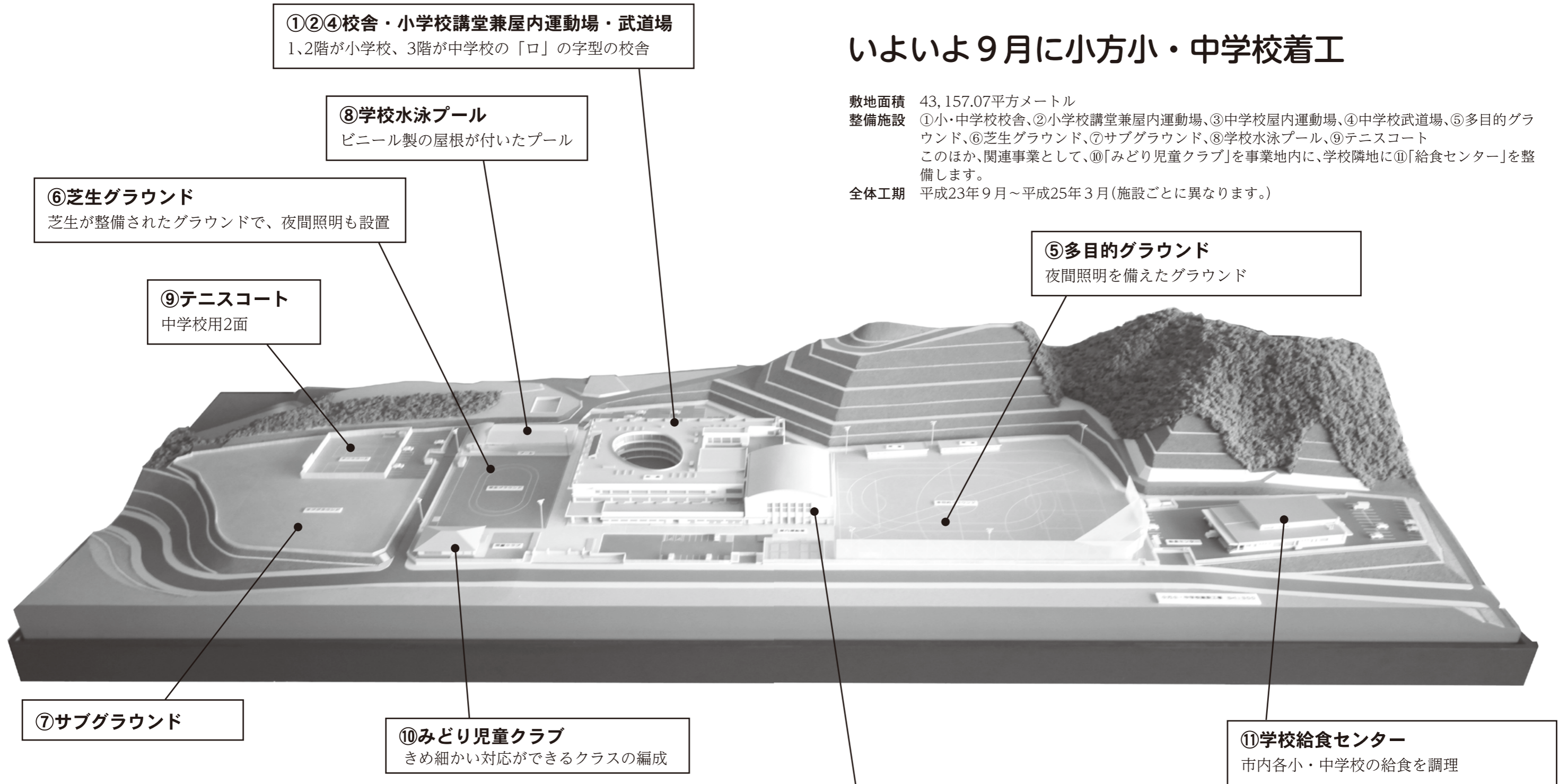
- 太陽光発電設備(10Kw)の整備、グラウンドの芝生化など、環境に配慮した学校づくり(エコスクール)を目指します。
- 学校菜園の整備をします。

4 快適でのびのびした学校づくり

- 教室などに空調機を設置します。
- トイレなど、清潔で快適な衛生環境の整備をします。
- グラウンドや中庭の芝生化を進めます。
- プールは、長期間(4月～11月)利用や一般利用を考慮し、ビニール製屋根を設置します。

いよいよ9月に小方小・中学校着工

敷地面積 43,157.07平方メートル
 整備施設 ①小・中学校校舎、②小学校講堂兼屋内運動場、③中学校屋内運動場、④中学校武道場、⑤多目的グラウンド、⑥芝生グラウンド、⑦サブグラウンド、⑧学校水泳プール、⑨テニスコート
 このほか、関連事業として、⑩「みどり児童クラブ」を事業地内に、学校隣地に⑪「給食センター」を整備します。
 全体工期 平成23年9月～平成25年3月(施設ごとに異なります。)



安定的な財政運営
 大竹小学校校舎改築事業に続いて大規模な事業を実施すると、本市の財政が危機的な状況に陥るのではないかという心配の声を聞くことがあります。市は大規模事業には、できる限り財源を確保して取り組むという姿勢を持っています。
 安定的な財政状況の確保を前提として行政運営を進めており、各種事業を進めながらも、平成17年度末には、約450億円あった地方債残高は、平成22年度末には、約400億円弱となっており、約50億円の減少となっています。
 小方小学校・小方中学校移転改築事業においても、文部科学省の負担金や防衛省の教育施設等騒音防止対策事業費補助金および米軍再編交付金を活用し、安定的な財政状況が保たれるという見込みの中で進めています。



新校舎イメージ図

開校予定 平成25年4月